

## 祈り続け求め続ける共同体

エフェソの信徒への手紙 4 章 12～16 節

2026 年5月3日 定期総会后主日

先週は、1 年に一度の教会定期総会が開催され、2026 年度の教会の歩みが新たにスタートしました。教会は、私一人という個人の信仰ではなく、イエス・キリストにある共同体として教会を立て上げていくという喜びがあります。そこで今朝は、「ついに、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において、一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」という、13 節の御言葉に耳を傾けたいと思います。

この御言葉から説教題は、「祈り続け求め続ける共同体」としました。何を祈り、何を求め続けるのでしょうか。それは、成熟した人間となり成長することです。教会の成長と人間の成熟は一体のもので、この二つを一体にして成長させるのはイエス様であり、教会は、「神の子に対する信仰と知識」によって、「キリストの満ち溢れる豊かさになるまで成長する」と記されています。「成長するでだろう」ではなく、「成長する」と、この手紙を記したパウロは断言しているのです。しかも、その成長は、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで、と語られています。何と励まされることでしょうか。

## 教会の存在意味

最初に、教会の存在意味について考えてみます。それは、イエス・キリストの救いの御業が全世界に広がり、全ての人を救いへと招く為に、神様が立てて下さったものです。先週の説教箇所を思い出してみますと、復活されたイエス様は、弟子たちに「あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい」(マタイ 28:19)と命じられました。そうして、全世界へと福音が伝えられて、世界のいたるところに教会が立て上げられ、このように日本にまで福音が伝えられて今の京都復興教会があることを確認しました。

福音伝道は、信仰者が自分の信仰を出し合って教会を立てていくようなものではなく、神様が救いの御業を遂行する為に備えて下さったものです。本日の箇所では、その為には信仰者が、未熟な者ではなく、イエス様の愛に根差して真理を語るができるようになることが大切だと記されています。私たちも自らの成熟を求め、真理を正しく語る者として、今、私たちの教会に置かれていることを心に留める者でありたいです。

## 乳飲み子と成熟した者

成熟の反対は未熟ですが、聖書ではヘブライ人への手紙において、「乳飲み子・幼な子」と表現されています。「実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。乳を飲んでいる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。」(5:12)あなたがたは幼子だから固い食物を食べることはできない、と語られています。

続いて6章では、だからまだ乳を与えるとは言わず、「・・・成熟を目指して進みましょう」と記されています。そのまま満足していて欲しくない、成熟したいという願いを持って欲しいというのです。固い食物を食べる必要性を知らずに乳を飲んでいて満足している人は、いつまで経っても乳を飲んでいることとなります。そうあってはならないというのです。現状維持という言葉がありますが、実はそれは維持ではなく、衰えてゆくことになるといわれています。歳を重ねると体力的にも衰えを感じます。これ以上弱らないようにトレーニング等をして保とうと努力をするものです。それと同じで、信仰も常に高き嶺を目指すが、後退しないということになります。今は、例え幼な子のようなもの

であるかもしれませんが、成長させてくださる神様に期待して参りたいです。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」。(1 コリントの信徒への手紙 3 章 1-9 節) 求めるところに神様は働いてくださいます。

一つとは

個が全体の中に解消されてしまうような、全体主義的な一致を意味ではなく、多様性が否定されているわけではありません。つまり、皆が同じにならなくてはならない、ということではありません。12-13 節に記されているように、イエス様に繋がり、天の御国の永遠の生命の約束に生きる私たちは、キリストの僕とされると同時に、地上に建てられた教会を建て上げるために、互いに神様から与えられた賜物を用いて、奉仕を行う者へとされています。救いへの感謝は、喜びを伴う奉仕の業となり、互いが互いの弱さを補い合い、キリストの教会を建て上げていくこととなります(14-16 節)。そうして其々が御言葉と祈りによって、整えられ成長して、愛によって一つとされるということでもあります。

しかし、信じている事柄においては一つでなくてはなりません。信仰だけでなく「信仰と知識において」と書かれています。それは、この世的な知識ではありません。「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい」。これが成熟した大人です。

何が自分の望んでいることか、何が自分の喜ぶことであるか、という自分中心のことしか考えられないのは、信仰の世界においても幼子であります。この日常生活の中で、「私」が主語ではなく、「神」が主語となり、何が神の御心であるか、何が神に喜ばれることであるか(ローマの信徒への手紙 12:2)、ということが考えられること、神様に御心を求めて生きる、これが成熟した信仰といえます。主語がこの「私」から「神」へと変えられた時、成熟した信仰者となり、成長する教会となってゆくことを信じます。京都復興教会がそのことを祈り続け求め続ける共同体とさせて頂けたら幸いです。